

0.1 H25 数学選択

[A] (1) $x^2 - 5$ は既約. よって $[\mathbb{Q}(\sqrt{5}) : \mathbb{Q}] = 2$ である. 最小多項式の根は $\pm\sqrt{5}$ である. すなわち $\mathbb{Q}(\sqrt{5})/\mathbb{Q}$ は Galois 拡大である. Galois 群は $\text{Gal}(\mathbb{Q}(\sqrt{5})/\mathbb{Q}) \cong \mathbb{Z}/2\mathbb{Z}$ である. 中間体は $\mathbb{Q}, \mathbb{Q}(\sqrt{5})$ である.

(2) $x^3 - 5$ は既約. よって $[\mathbb{Q}(\sqrt[3]{5}) : \mathbb{Q}] = 3$ である. 最小多項式の根は $\sqrt[3]{5}, \omega\sqrt[3]{5}, \omega^2\sqrt[3]{5}$ である. ただし $\omega = \cos \frac{2\pi}{3} + i \sin \frac{2\pi}{3}$ とする. $\omega \in \mathbb{C} \setminus \mathbb{R}$ であるから $\omega \notin \mathbb{Q}(\sqrt[3]{5}) \subset \mathbb{R}$ である. よって $\mathbb{Q}(\sqrt[3]{5})/\mathbb{Q}$ は Galois 拡大でない.

Galois 閉包は $\mathbb{Q}(\sqrt[3]{5}, \omega)$ である. $x^2 + x + 1$ は $\mathbb{Q}(\sqrt[3]{5})$ 上既約であるから $[\mathbb{Q}(\sqrt[3]{5}, \omega) : \mathbb{Q}(\sqrt[3]{5})] = 2$ である. よって $[\mathbb{Q}(\sqrt[3]{5}, \omega) : \mathbb{Q}] = 6$ である.

(3) $x^2 + x + 1$ は $\mathbb{Z}/2\mathbb{Z}$ 上唯一の 2 次の既約なモニック多項式である. したがって $\mathbb{Z}/2\mathbb{Z}$ 上の可約な 4 次多項式で $\mathbb{Z}/2\mathbb{Z}$ に根を持たない多項式は $(x^2 + x + 1)^2 = x^4 + x^2 + 1$ のみである. すなわち $x^4 + x^3 + x^2 + x + 1$ は $\mathbb{Z}/2\mathbb{Z}$ 上既約である.

仮に $x^4 + x^3 + x^2 + x + 1$ が $\mathbb{Q}[x]$ 上可約であるとする. これは $\mathbb{Z}[x]$ 上可約であることを意味する. このとき $\pi: \mathbb{Z} \rightarrow \mathbb{Z}/2\mathbb{Z}$ から誘導される写像で $x^4 + x^3 + x^2 + x + 1$ を送ると, $\mathbb{Z}/2\mathbb{Z}[x]$ 上で可約となり矛盾する. したがって $x^4 + x^3 + x^2 + x + 1$ は $\mathbb{Q}[x]$ 上既約である.

すなわち $\mathbb{Q}(\zeta_5)/\mathbb{Q}$ は 4 次の Galois 拡大である.

$\sigma(\zeta_5) = \zeta_5^2$ とする. $\sigma^2(\zeta_5) = \zeta_5^4 \neq \zeta_5$ であるから $\sigma^2 \neq \text{id}$ である. よって σ の位数は 4 であるから $\text{Gal}(\mathbb{Q}(\zeta_5)/\mathbb{Q}) \cong \mathbb{Z}/4\mathbb{Z}$ である.

よって中間体はただ一つ存在して $\mathbb{Q}(\zeta_5 + \zeta_5^{-1}) = \mathbb{Q}(\cos \frac{2\pi}{5})$ である.

円分体の知識をみとめれば, $\text{Gal}(\mathbb{Q}(\zeta_5)/\mathbb{Q}) \cong (\mathbb{Z}/5\mathbb{Z})^\times \cong \mathbb{Z}/4\mathbb{Z}$ であることがすぐにわかる.